

日刊薬業

製薬産業の国際競争力強化は重要

村上規制改革相「保険あてにした仲良しクラブはダメ」

村上誠一郎・規制改革等担当相は16日、本紙の単独インタビューに応じ、「製薬業界をスクラップ・アンド・ビルドして、世界で戦える開発力、競争力ある製薬企業を育成していくべきだ」と強調。自身が所管する規制改革・民間開放推進会議で、こうした考えを主張する構えを見せた。

村上担当相は、日本の製薬産業について、「日本の保険の中でしか物事を考えず、世界で飛躍するんだ、戦うんだという意識が非常に欠けている」と厳しく批判。さらに「1つの薬だけで食べているメーカーが多すぎる」と、長期収載品に対する問題意識も示した。今後の制度改革については、①現行1万2000種類の薬価収載医薬品の再評価を行って、安全で有用な医薬品のスイッチOTC薬化(医療用薬成分の一般薬への転用)を進める②薬価収載品絞り込みでねん出された財源を基に新薬に高薬価を付けるなどして、製薬

企業に開発インセンティブを与え、国際的な競争力を養成する③有用性に疑問があるOTC薬の医薬部外品化も進め、薬局やコンビニで販売する医薬品を整理する——などの案を示した。

村上担当相は、「仮に財政がもつと悪化して保険財政を減らすとなった場合は、当然初めは医薬品が対象になる」との見通しを示した。その上で、「保険のマーケットはどんどん縮小し、これをあてにして、こじんまりと身内で仲良しクラブでやっていては、世界では勝てない。世界で戦うための開発インセンティブの仕組みを、規制改革の中でやっていかなければならない」と強調した。

また、日本製薬団体連合会が中央社会保険医療協議会に製薬業界代表者の委員参加を求めていることについては、個人的見解と前置きしつつ、「できるだけ多くの分野の意見を反映できるようにすべきと考える」と述べるにとどまった。